美 術 科 学 習 指 導 案

日　時　平成 28 年 5 月 19 日（木）第 2 校時
対　象　1年1組（男子19名　女子20名　計39名）
指導者　教　諭　　前　之　園　礼　央

1　題　材　1年　デザイン

2　題材名　「偶然の美を生かして」

3　題材設定の理由

(1)　題材観

2020 年に 56 年ぶりに，東京でオリンピックが開催される。オリンピックは，これまで，スポーツ文化だけでなく，建築物や都市計画，食文化など様々なものに大きな影響を与えてきた。それは美術の分野においても例外ではなく，1964 年の東京オリンピックの時には，世界各国から訪れる人々との言語の壁を埋めるために「ピクトグラム」が考案され，世界的に認知されるきっかけとなった。このように世界中の人々が，言語や文化の壁を超えて，互いを理解し合おうとすることができるのも美術の大きな魅力であり力である。２回目となる東京オリンピックの開催まであと４年。インターネットによる情報技術が成熟期を迎えている現在では，世界中の情報を簡単に手に入れることができる時代になっている。このような時代においては，無数の情報から本質を見抜く視点とそれを自分なりに表現し発信する表現力を身につけることが大切である。そしてその力は，世界にヨ本の文化を発信し，より広く理解してもらうとともに，私たち日本人が，より深く我が国の文化を理解することに繋がると考える。

本題材「偶然の美を生かして」は協働的な学習課題である。まず生徒は，10 センチ四方の厚紙に，モダンテクニックの技法を生かして，偶然にできた色や形で様々なカードを作る。そして班で話し合いながら，それぞれのカードを組み合わせ一つの作品にまとめながら作り上げていく。生徒一人一人が作ったカード（以下，本題材ではアートタイルと呼ぶ）は，偶然の美を生かして制作されたものであり，アートタイルそのものは意味をもたない。生徒は，それらを組み合わせ一つにまとめる過程の中で，一つの作品としての価値を見いだしていく。また，この個人でのカード作りは，小学校の図画工作科における造形遊びとの関連が強いものである。造形遊びを通して学習してきたことを十分に生かすことによって，小学校とのつながりを感じさせ，中学校美術の学習に難しさや苦手意識をもたせることなく取り組ませることができると考える。

協働的な学習においては，自分たちの作品を協力して完成させたいという心理的側面と，自分の役割を十分に果たしたいという行為的側面が生まれる。そのことは，個人での制作では味わうことのできない連帯感や，より大きな達成感につながると考える。そのために，ホワイトボードやチェック＆アチーブボードを活用し，自分の考えや意見を互いに出し合いながら発想を広げたり，班や自分の課題を意識しながら構想を練り上げたりしていくことで，よりよく課題を解決していくための見方や考え方を学ばせることができると考え本題材を設定した。

(2) 指導観

題材の導入では，ジャクスン・ポロックやサム・フランシスの作品を鑑賞させ，思ったことを自由に意見させ，教師との対話を通して，作品のもつ色彩や形の美しさ，面白を自分なりに感じ取らせたり，その表現に用いられた技法について興味や関心をもたせたりする。その活動を通して，モダンテクニック等を用いて表現される偶然の色彩や形，構成的な美しさや面白さを味わわせる。

展開においては，モダンテクニックの基本的な技法を自由に組み合わせ，できるだけ多くの表現をさせる。この時，他の人の発想にはない，独自の表現を見いださせるように指導する。また，絵の具などの画材に加え，軽量粘土を用い，表面に凹凸の変化をつけさせることで油絵のマチエールのような質感の表現も取り入れ，発想の幅を広げられるようにした。

展開における発想・構想を広げる場面では，班で一人一人が作ったアートタイルを組み合わせて一つの作品にさせる。思い思いに作ったアートタイルには，共通したテーマはないので，はじめは班でも戸惑う様子を見せるが，班の作品を並べて客観的な視点で見る中で，徐々に共通点や違いから班のテーマを見いだしはじめる。その際，ホワイトボードを活用させ，発想や構想したことを絵に描いたり図にまとめたりしながら視覚的に話し合いを進めさせ，アイデアや意見を視覚化して共有させるように指導する。

展開における発想・構想を広げる場面では，班に「テーマ」，「色彩」，「形」，「マチエール」の４つの視点をもたせ，班の作品について４つの視点で振り返らせまとめさせる。そして，他の班とのエキスパート活動（H27,本校研究誌を参照）を通して意見交換をさせる。この活動を通して，自分の班の作品をより良くするための意見を収集することができるとともに，他の作品と自分の作品を比較することで，学習課題に対する相対的な視点をもたせることができると考える。

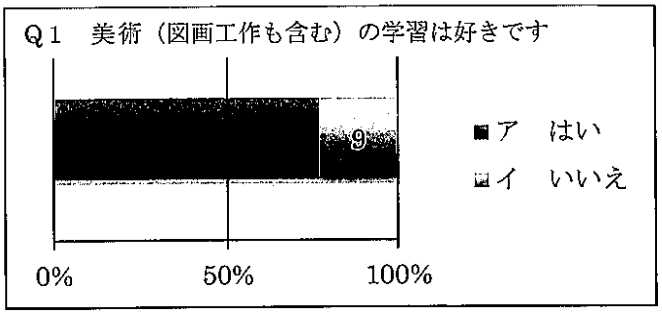
展開における収束の場面においては，ホーム活動の中で，収集してきた意見を共有し，チェック＆アチーブボードを使って，４つの視点で作品に対する満足度を自己評価させ，なぜその評価になったのかの根拠を明確にさせる。そうすることで，メタ認知的な思考で班の作品について考えさせることができ，根拠のある改良へと繋がるとともに班の作品に対する価値意識も高まると考える。また，話合いの中で出てきた意見と色彩や形を結びつけて表現させ，明確な根拠をもって表現活動に取り組ませるとともに，豊かな表現力や感性を一層伸長させたい。

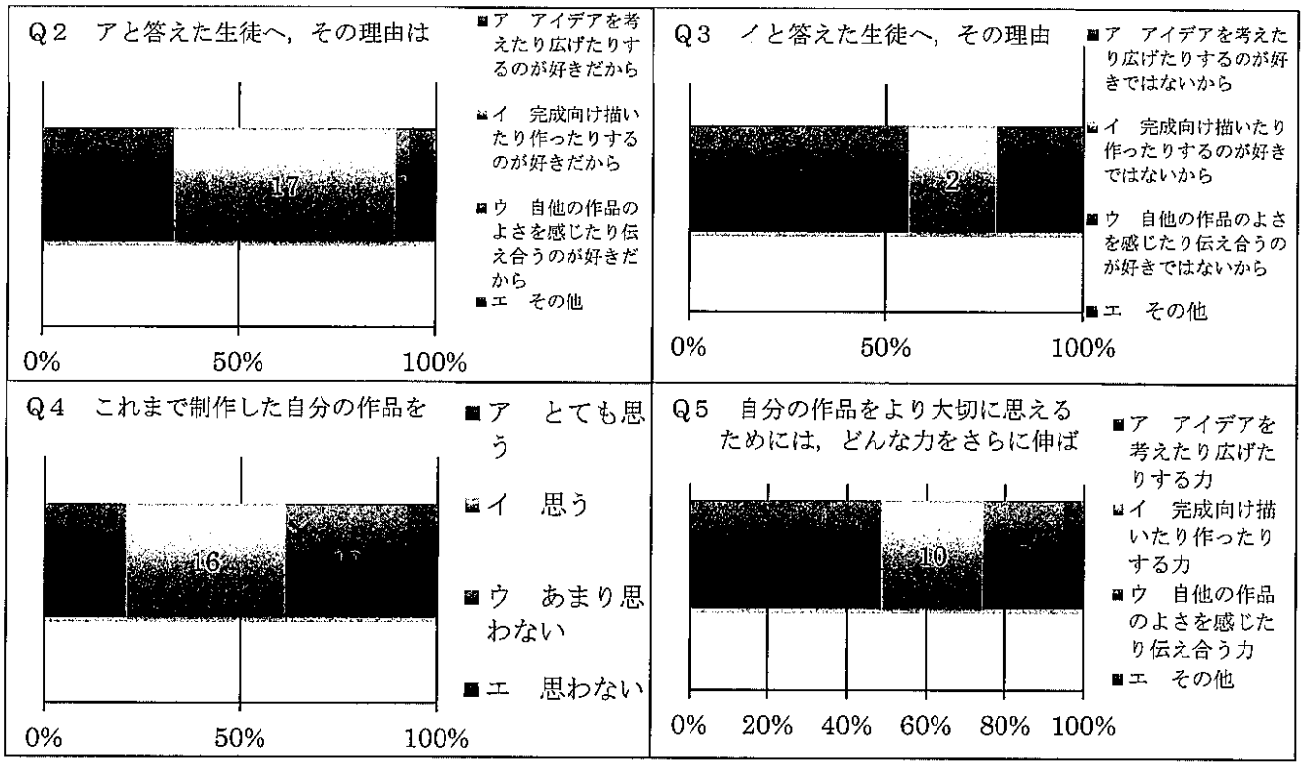
本題材の作品作りでは，互いのアイデアや意見を自由に出し合える雰囲気と，互いの意見や他の班からの提案や意見を効率的に整理し，根拠のある選択をさせる手立てが必要である。制作に取り組む楽しい雰囲気の中で試行錯誤し創意工夫する姿を引き出せるような指導に努めたい。

(3) 生徒の実態

本時の指導に先立ちアンケート調査を行った結果を示す。

（対象は附属中学校１年１組 39 名　平成 28 年４月 14 日実施）





本学級の生徒たちは入学して日が浅く美術の授業の経験も少ない。小学校での図画工作科の経験も合わせ，美術の学習に対して多くの生徒が「好き」と答えているが，２割強の生徒は「好きではない」と答えていた。また，「好き」と答えた生徒は，実際に作品を制作する活動をその理由に挙げ，「好きではない」と答えた生徒は，作品の主題を発想・構想する活動をその理由に挙げていた。制作に入る場面や課題に直面した場面，制作の状態を振り返る場面で，多角的に情報を収集する機会を設けることで，より多くの生徒が美術の学習に意欲的に学習に取組むことができると考える。

さらに，これまで制作した自分の作品を大切な（価値ある）ものだと思っている生徒は，全体の約半数に留まり，生徒は自分の作品をより一層大切な（価値ある）ものとするためには，よりアイデアを考えたり，広げたりする力が必要と感じていた。このことからも，作品を制作する過程で，何を表現したいのか（しているのか）という主題を明確にし，それに近付くための課題を把握して改良点を見つけていく手立てを設定することで，生徒は自分の作品のよさ（価値）を根拠をもって構築し表現したり，他の人と伝え合ったりすることができると考える。

4　題材の指導目標

(1)　美術への関心・意欲・態度

様々な材料や技法を用いた表現から生まれる色彩や形に関心をもち，主体的に協力しながら学習しようとすることができる。

(2)　発想や構想の能力

偶然から生まれる色彩や形から主題を発想し，材料や表現方法を工夫し，表現意図に合う構想をして，作品を制作することができる。

(3)　創造的な技能

材料や用具の特性を生かし，表現したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫して創造的に表現することができる。

(4) 鑑賞の能力

作品のもつ色彩や形のよさを感じ取り，表現の意図や工夫を自分なりの価値意識をもって味わうことができる。

5 指導計画及び題材の評価規準

	ア関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規	様々な材料や技法を用いた表現から生まれる色彩や形に関心をもち，主体的に協力しながら学習しようとしている。	偶然から生まれる色彩や形から主題を発想し，材料や表現方法を工夫し，表現意図に合う構想を練っている。	材料や用具の特性を生かし，表現したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫して創造的に表現している。	作品のもつ色彩や形のよさを感じ取り，表現の意図や工夫を自分なりの価値意識をもって味わっている。
時	学習に即した評価規準及び生徒への手立て			
1	① 偶然から生まれた色彩や形の美しさ，面白さに関心をもとうとしている。（生徒の反応・発表）〔C:対話によって関心をもたせる。〕			① 作品のもつ美しさや面白さを感じ取り，自分なりの言葉で説明し表現することができる。（ワークシート・発表）〔C：対話によって考えを整理させる。〕
2・3		① 色彩や形の美しさや材料の特徴から，表現方法を発想している。〔活動の様子，作品〕〔C:参考作品や他の作品を参考にさせる。〕	① 材料から感じたことを基に，意図に応じて材料や用具を生かしたり，全体の構成を考えたりして表現している。（活動の様子，作品）〔C:机間指導〕	
4		② アートタイルを色々と組み合わせる中からテーマを発想し，テーマに合う構成を構想することができる。（ホワイトボード，活動の様子，作品）〔C:机間指導で手がかりを与える。〕		② 班の作品のよさを感じ取り，自分なりの言葉でまとめている。（話合いの様子，プリントの内容）〔C:机間指導で手がかりを与える〕
5（本時）		③ 他の作品や意見からよさを感じ取り，色彩や形などの構成を更に工夫し，表現の構想を練っている。（活動の様子，作品）〔C:視点ごとの課題に気づかせる〕	② 他の作品や意見から感じたことを基に，意図に応じて材料や用具を生かしたり，全体の構成を考えたりして表現している。（活動の様子，作品）〔C:机間指導〕	
6・7			③ 制作意図に応じて材料や用具を生かしたり，全体の構成を考えたりして表現している。（活動の様子，作品）〔C:机間指導〕	
8				③ 自他の作品のよさを感じ取り，自分なりの言葉で表現しようとしている。（発表，ワークシート）〔C:主題と作品の関係を問う〕

※ 単位時間の評価基準については「おおむね満足できる：B」とする場合の規準とする。（　　）は，評価の対象，〔C：〕はBに到達しない生徒への手立てとする。

6 題材の指導計画

(1) 本校の研究内容との関連から（教科論文，本時の手立てとの関連）

研究の視点Ⅰ　教科論（1）－ ア

教科論　独創的な見方や考え方を培うための工夫

協働的な学習課題を設定することで，知的コミュニケーションを図らせ，互いの意見をつなげさせ，新しい工夫をしたり意見をまとめたりさせることで，より質の高い課題解決的な思考の方法を身につけさせる。

研究の視点Ⅱ　教科論（１）－　イ

教科論　**価値意識を形成するための思考ツールの活用**

自分たちの作品のどこに満足していてどこに改良の余地があるかを，チェック＆アチーブボードで視覚化させる。そうすることで，全班員で作品の制作過程における課題を共有しながら話し合いをさせることができる。そして，改良する目的や方法を，根拠をもって決めさせることができる。この判断力の育成が，自分なりの価値意識の形成につながると考える。

研究の視点Ⅲ　教科論（２）－　ア

教科論　**能動的な学習を活性化させるための形成的評価**

他の班の作品の情報生かし，チェック＆アチーブボードを使って客観的に自分たちの班の作品を見させ自己評価をさせる。また，その自己評価に対する理由を明確にさせることで，自己課題を見いださせ課題解決へと向かわせる。また，自分たちの作品が，理想に向かって順調に進んでいるのか，見落としていることがないかを認識することは，メタ認知的な思考力の向上につながると考える。

(2)　指導計画（全体８時間：本時５／８）

時	主な学習活動		主な学習の活動
1	1　ジャクスン・ポロックやサム・フランシスの作品を鑑賞する。 2　学習課題を理解する。 3　モダンテクニックについて学習し実践する。	5（本時）	7　他の班と作品について説明し合い情報交換をする。 8　チェック＆アチーブボードで視点ごとに自己評価する。 9　作品について，改良案を話し合う。
2・3	4　モダンテクニックを使って自由な表現方法を見いだし，アートタイルを制作する。	6・7	10　改良案を基に制作する。 11　作品を固定し，完成させる。
4	5　それぞれのアートタイルを組み合わせて，一つの作品を制作する。 6　４つの視点で作品についての解説を書く。	8	12　作品の発表会を開き，互いの作品のよさを感じ取りまとめる。

７　本時の実際（５／８）

(1)　指導目標

ア　他の作品や意見からよさを感じ取り，色彩や形などの構成を更に工夫し，表現の構想を練ることができる。　【発想や構想の能力】

イ　他の作品や意見から感じたことを基に，意図に応じて材料や用具を生かしたり，全体の構成を考えたりして表現することができる。　【創造的な技能】

(2)　準備するもの

教師：　教科書，美術資料，ホワイトボード，マーカー，チェック＆アチーブボード，付箋紙（４色），アートタイル，モダンテクニックの用具，軽量粘土

生徒：教科書，美術資料，Art Works，アクリラガッシュ，筆記用具，アートタイル

(3) 本時の展開

過程	時	学習の内容	形態	指導上の留意点
導入	5	はじまり 学習課題の確認 1 1 前時までの学習と学習課題を確認する。 学習課題：「偶然の美」から生まれたアートタイルを組み合せ，共同作品を作ろう。	一斉	○ 机上に作品を並べさせて，作品を比較しながら話を聞かせるようにする。 研究の視点Ⅰ 独自な見方や考え方 ○ 作品を見た人に，その制作の意図や思いが伝わるように，全班員で話し合いながら制作することが課題であることを再度，理解させる。
		今日の目標の理解 2 2 今日の目標を理解する。 作品のよさについて整理して考え，よりよい作品にしよう。	一斉	
	3	情報の確認 3 3 班の作品のよさについて確認する。	班	○ 収集した情報を整理し，作品の課題と照らし合わせながら作品を改良するという学習の流れを理解させる。 ○ 4つの視点について再確認し，自分たちの作品について共通理解させる。
	10	情報の交換 4 4 他の班と作品について情報交換する。 ・ テーマは○○で，この部分が色でそれを表現しています。 ・ マチエールが工夫されていて面白い作品になっているな。 ・ 作品と説明があっているな。	一斉	○ リーダーには，見に来た生徒に作品について解説をさせる。 ○ リーダー以外の生徒には，他の班を回り，各作品の解説を聞き意見や感想を述べさせる。
展開	5	情報の共有 5 5 集めた情報を班で共有する。	班	○ リーダーが聞いた意見や感想と他班の作品を見て得た情報を出し合わせ，情報を共有させる。 研究の視点Ⅲ 能動的な学習の活性化
	10	形成的評価 6 6 チェック＆アチーブボードで視点ごとに自己評価する。 ・ 他の班は，もっと立体的なマチエールがあってよかったな。 ・ テーマとの関係がよくわからないって言われたからもう少し工夫しないと。 ・ これくらいの達成度かな	班	○ 視点ごとに課題に対する到達度を自己評価させる。 ○ それぞれの評価について説明をさせ，全員が納得する評価を決めさせる。 ○ 評価に対する根拠を明確にさせる。
	15	改良案の検討 7 7 作品の構成について，改良案を話し合う。 ・ テーマとの関係をもう少し工夫しよう。 ・ ここととここのアートタイルを入れ替えればどうかな。 ・ この間に，こんなアートタイルを作って入れたらどうかな。	班	研究の視点Ⅱ 価値意識の形成 ○ 具体的な改良案についてホワイトボードを活用しながら考えさせる。 ○ 評価の理由と他から得た情報や意見を結びつけさせるように指導する。 ○ 具体的な案ができたところは，アートタイルを制作させる。
終末	2	まとめ 8 8 本時のまとめをする。 ・ 自分たちの作品の足りないところがわかったぞ。 ・ こうしてアイデアを考えればいいのか。 おわり	一斉	○ 数班に改良した箇所を紹介させ，その理由についてボードと対応させながら説明させる。 ○ よりよい作品にしていくためには，情報を集め，比較しながら新たな目標を見いだすことが大切であると理解させる。